

## 平成26年第11回沼津市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成26年11月17日（月）午前9時45分～午前10時15分

2 場 所 沼津市立静浦小中一貫学校 4階 黒潮ホール

### 3 日 程

(1) 会議録署名人の指名（細沼委員 三好委員）

(2) 前回会議録の承認（土屋委員 三好委員）

(3) 議 案

なし

(4) 協 議

なし

(5) 報 告

1) 全国学力・学習状況調査に係る検証改善委員会について

2) 平成27年成人式及び新成人議会について

(6) そ の 他

### 4 出席者等

委員長 久松但、委員長職務代理者 細沼早希子、委員 三好勝晴、委員 土屋葉子、  
教育長 工藤達朗、教育次長 工藤浩史、教育指導監兼学校教育課長 鈴木珠美、  
市立高校長兼中等部校長 川口孝博、教育企画室長 井原正利、学校管理課長 塩崎滋、  
生涯学習課長兼勤労青少年ホーム館長兼ゆめとびら舟山所長 中村朗、  
教職員研修センター所長 神谷修、市立高校事務長 杉山善英、  
スポーツ振興課長兼勤労者体育センター所長 原靖、文化振興課長補佐 山内良太、  
青少年教育センター所長 相磯幸代、  
教育委員会調整担当 新井寿明、教育企画室主事 和泉百映、教育企画室主事 石渡輔

### 5 会 議

久松委員長が午前9時45分、開会を宣言する。

久松委員長より会議を公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 0人

久松委員長より、会議録署名人に細沼委員、三好委員を指名する。

### 6 教育長挨拶

おはようございます。本日は、静浦小中一貫学校で行うこととなりました。

静浦小中一貫学校における視察について、まだ今日までの集計結果を聞いていませんが、現在も教育企画室を中心に毎週2～3組行うほど、全国から多くの視察に応じております。直接、学校でも教員等の視察の対応をしておりますので、非常に多くの方々が興味関心を持って見てくれています。

東北地方の都市からも視察に訪れていまして、これはおそらく震災で学校が壊れてしまい、建て直すのだと思いますが、この学校は防災機能を持った小中一貫校であるということ様々なところでPRしているものですから、新しく建てる際の参考にするのだと思います。

また、三重県からも視察に来ていまして、やはり海の近くで、震災後に新しく校舎を建設した例は全国的にも少ないため、参考にさせていただいているのだと思います。

もう一つ、教育には環境が重要だと改めて感じています。こういう素晴らしい環境だと、子ども達もやる気になるということがよくわかりますので、教育の環境整備は重要であると思っ

ております。

そして、教育委員会の課題でもあります隣接校選択制ですが、今年は見直しをしました。その結果、想定通り今までよりも2分の1の動きとなりました。これは想定どおりだったのですが、想定以上に急激に子ども達に変化している地区がございます。今後は長期計画的に考えていかなければならないと思っております。

## <報告>

### 1) 全国学力・学習状況調査に係る検証改善委員会について

(教職員研修センター所長 資料に基づき説明)

久松委員長 説明が終わりましたが、本件に対する、ご質問、ご意見ありませんか。

三好委員 とても良いと思います。今までも学校から各家庭に向けたメッセージや取り組みはたくさんやってきていることと思います。今回、まとめた資料を数値に表してこのように出すことは、至れり尽くせりで、家庭に対して親がどのようにしたら良いかということがわかりとても良いと思いました。生活リズムの確立、生活設計能力はなかなか言葉にすることは難しいとは思いますが、先日の研修で、脳科学のお話をさせていただきました。その中で、「誉める」ということ、誉めるタイミングや誉める言葉があったりしますので、ぜひとも学校の先生方にも理解を深めていただいて、このような資料から家庭にも伝わっていくと、より子ども達に対しても、近くにいるおじいさんやおばあさんにも良いのかと感じました。

教職員研修センター所長 子どもを誉めることについては、自信を持たせること、自己肯定感を持たせることが非常に重要であるという話し合いが、研修会の中で委員の先生方からもお話がありました。リーフレットを見ていただきますと、去年と少し変わっている点は、生活状況調査の2面の一番下に、「こどもの意欲につながる声かけを工夫してみましょう」と書かれています。これは昨年度まではなかったのですが、今年ぜひ入れて、学校を通じて各家庭に徹底していくようにということにしました。話し合いのなかでは、具体的な声掛けの例を載せようかということが議論になったのですが、それについてはやはり家庭が子どもの実態に合わせて考えるべきであろうと、あえて、こんな声掛けをすると良いというような具体例は資料から割愛してあります。今お話がありましたように、できるだけ多くの機会で、子どもを誉めるということの大切さを伝えていきたいと考えています。

三好委員 このリーフレットの一文を家庭で読んでも、なかなかその意味は入りづらいと思います。具体例ということになってしまうのかもしれませんが、「なぜ、そうなのか」ということを含めた何かを、親が見たときに文章としてズラズラとなるよりかは、文章になってもそこをうまくまとめていただくと、より効果的になるのではないかと思います。文章を読み解けばいいのでしょうが、家庭ではなかなかそれは難しいと感じましたので、そんな工夫があるとより良いのではないかと思います。

教育長 少し付け加えまして、先日の研修の講演会で印象深いところを申し上げます。アメリカの大学でひとつの実験を行いました。その実験は、軽い知能テストをやり、8割とった生徒を2つのグループにしました。1つのグループは、誉めるときに「あなたは大変な能力があるね」「資質がある」「すばらしい」という誉め方をしました。もう1つのグループには、「あなたは頑張ったね」「頑張ったから8割とれた」と努力を誉めました。この2つのグループの全員

に対し、今度はその知能テストよりも少し難しい問題と少し易しい問題を用意して、目の前に出しました。そして、あなた方の好きな問題を取りなさいと選択をさせ、2つのグループに分けたそうです。易しい問題を選択したグループとより難しい問題を選択したグループで分けたときに、より難しい問題を選択した子どもたちの殆どが、誉めるとき、「あなたは努力したね」と努力を誉めた子どもたちが選択をしたそうです。「あなたは能力があるね」と誉めた子どもたちはみんな易しい問題を選択したそうです。

また、みんなで意欲を持って未知の問題をやろうという時に集まった子はみんな、「努力したね」と誉めた子たちだったというお話がありました。

誉めるときは、「努力したこと」を誉めることが良いという例で、ではなぜ「能力がある」と誉められた子たちが、それ以上難しいことに挑戦しないのかというのは、自尊心があり、これ以上落ちたくないという気持ちが働くためということでした。

これは、自分が能力があると思ってしまうため、点を取ることに集中してしまい、失敗したら困るという意識が働き、より易しい問題を選択してしまいます。ですので、「努力した」ということを誉めると、もっと努力してできるようにになりたい、そして頑張っていくというお話でした。

一つの例として、「努力」を誉めて子どもを育てると良いということで、これは、アメリカのスタンフォード大学で行われた実験で、この実験の結果は殆ど認められているという内容でした。

三好委員 リーフレットにも、納得できるような事例として、このようなことをポイントポイントで取り入れていただくといいのかと感じました。

教育長 われわれ人間は、子どもも大人もみな同じで、努力して「いい仕事をしたね」と言われた方が頑張ったと思いますから、努力を誉めることは子どもも大人も同じだと感じました。

土屋委員 学校の中では先生方は同じように子ども達に指導して下さいますから、差が出るのは家庭だと思います。資料の中で、家庭への啓発内容はとても良いと思いますので、必ずやり遂げるという習慣を家庭でも作ってほしいと思います。このことは、大きくなったときにとっても大切だと思いますので、強調していただきたいと思います。

久松委員長 ほかにありませんか。

それでは、本件は報告を受けたということでご了承願います。

## 2) 平成27年成人式及び新成人議会について

(生涯学習課長 資料に基づき説明)

久松委員長 説明が終わりましたが、本件に対する、ご質問、ご意見ありませんか。

三好委員 毎年、出席者は1600人ぐらいなのでしょう。

生涯学習課長 そうです、年によって違いはあります。成人の人数は年々減少はしております。

久松委員長 ほかに何かございませんか。

それでは、本件は報告を受けたということでご了承願います。

午前10時15分 閉会